




校長せんせい 何で「どうめき山は、どうめき山なんですか？」

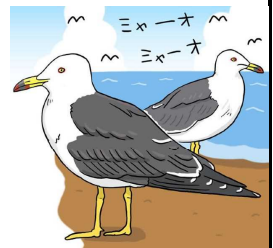
校歌に出てくる地名を訪ねて (その2：陸編)

「わぁ〜すごい。甌島って猫がいっぱいだ♪」

こちら  ではなく こっち→



ここでいう猫とは
うみねこ
海猫 のことです。
(普通の猫も多いですけど…)



朝、正門でみんなを迎えるとき、私は毎朝海の様子も見て、「今日は何羽いるだろう？」と学校の前の港をのぞきながら数を数えることが日課になっています。

(嵐のような時は 50 羽ぐら集まって固まっています。)

海猫が毎朝にゃーにゃー 行って出迎え？ てくれる学校なんて、これも県本土ではまずない！
と思います。冬に **かもめ** はたまに見かけましたけど、海猫は寒いところのイメージでしたから、こんなに身近にいること自体が驚きでした。

調べてみると、この甌島は海猫の南限 (日本列島で住んでいる一番南はし) だそうで、なるほどと思いました。

話のついでなので、中津に向かう峠には、へゴの北限 と看板がありますよね。へゴって分かり
ますか？ これ → シダが木になって成長するやつ

なんとこれは、鹿児島県内
天然記念物に指定されてます。
ましよう♪




のいくつかの場所とともに、国の
まだ見ていない人はのぞいてみ

さらに続ければ、最近学校
んぼに変わったりしてますが、
います。さあこれは何でしょう？

の裏手の牧草地が刈られたり、田
そこに白い鳥がいっぱい群れて



白鳥？ 違います。 **アマサギ**です。一般に他の種類が違う白色のサギとまとめて、
シロサギ と言ったりしますが、げんみつ厳密に言うと、シロサギという鳥はいないそうです。

現在期間限定で、 このようにオレンジ色がかったアマサギもまざっていますが、この鳥さ
はなよめぼしゅうちゅうんたちは“花嫁募集中！”とアピールしている鳥さんですよ。



アマサギは地面の虫や昆虫を好んで食べます。田んぼ作るのに、地面ひっくり返したので、“わぁ〜い ごちそうがいっぱいだ♪” と 50 ~ 100 羽と大量に集まってきたようです。

白鳥 と サギ の見分け方ですが、サギは基本ペリカンの仲間なので飛んでいる時は首を S 字に曲げて飛びます (白鳥はまっすぐ)。港の中には海猫の中に、もっと体格のよい青っぽいサギが単独でまざっている時があります。これは **アオサギ** で主に魚を食べます。油断していると、お家の池の鯉なども食べられてしまいますから、注意が必要です。(以前務めていた学校の池の鯉「あれ？ 太郎と次郎がいない事件」の犯人が、このアオサギでした…。)

別な話ですが、学校の中でも発見があります。保健室の当房先生が気づいて見つめる先には、ピーピーと鳴く野鳥のひなたちがいました。見ていると親鳥がせっせとごはんを運んでいます。何だろう？と思って調べてみましたが、鳴き声や姿形から、おそらく これ→ **イソヒヨドリ** と思われるます。



(裏面へ つづく)

野鳥は、ひなを守る方法として、時に人を利用します。適度に人通りのある軒下などは、いたりやへびが近づかず、カラスやトンビも簡単には入ってこれません。

ただ、みんなでどこどこ？とのぞいていると親鳥が警戒してひなにごはんを運べなくなります。そっと見守り、イソちゃん？ たちの巣立ちの日を楽しみに待つとしましょう♪

さて、ようやく本題に入りますね。

話は先週の日曜日 5/30 に戻ります。

海から帰ってきてはまだ 10 時半♪ 校歌に歌われている地名、残るは **遠目木山**

「そうだ、遠目木山へ 登ろう♪」

と、お昼休憩をして、夕方 上甕島最高峰、遠目木山にさくっと登ってきました。

遠目木山、初めてには里小学校の卒業くつもありました。

小学校卒業を機に、一望できるこの地をているんだろなありました。

さて、遠目木山の

向かい側の遠見山に異国船の見張り所のろしを上げていた。



登りましたが、山頂記念モニュメントがい

ふるさと里の町並みをみんなで登り絆を深め～と 温かい気持ちにな

名の由来ですが…

は字のごとく江戸時代があり、異状があると、と本に書いてありまし

薩摩藩の連絡網もすごい！ のろしがあがると、すぐさま対岸の薩摩半島の羽島などでキャッチして、次々と中継点でのろしが上がり、あっという間に鹿児島城下へ通報されたというのです。

遠目木山は登ってみて分かりましたが、上甕島最高峰だけあり、薩摩半島側だけでなく、東シナ海や下甕島まで見渡せます。

遠目木山も、「遠目」つまり「遠くを見つめる」役割を果たしていた？ もしくは直訳すると

「遠目木山」 = 「遠くに見える木の山」となります。

生活の中心だった里集落から見て、そう名付けたのかもしれませんが。??? 今度郷土史のもっと厚い本を読んで調べてみますね（宿題…）。

この甕島は、鎌倉・室町幕府の直轄地として小川さんという大名が長く治めていました。そのお城が小学校の裏にある**亀城**です。それが関ヶ原の戦い（1600 年）のちょっと前に、島津藩の殿様が、ここは「島津が直接治める！」と言って小川さんに引越（1595 年）を命じ、本田さんという家老を地頭（領主）として送り込みました。その政治の中心となる建物が**番所**で、里小学校の校庭に立っていたというのですから すごい！

歴史を知れば知るほど、みんなはすごいところに住んで、そこで学んでいる。そして、豊かな自然にも恵まれている。甕島、それに里 みんなのふる里は本当に **すごい！** と、つくづく思うのでした。ふる・コミの授業でいっぱい調べてくださいね。

さあ、これで 校歌に出てくる地名を訪ねて（その 2：陸編）は、おしまい

わっ やらかした！

登山口まで下山したとき気づきました…。「背中ポケットに入れてたタオル落とした！…」

翌日月曜日の夕方、仕事終わってから、すごすごともう一度遠目木山登る校長せんせい…いわく「山のゴミ？は、必ず持ち帰るようにしましょう」でした。

